

事例 =余暇の指導=

## 友だちと一緒に音楽を楽しめるようになったA君

特別支援学校 小学部

### 《子どもの様子は?》

A君は好きな教師や関心のある教師がいるのを見つけると駆け寄っていき、そばに立ったり、顔をのぞき込んだりするなど、周りの人にも興味を持ち始めています。また、自転車乗りやアスレチックなど、外で体を動かすことが大好きな男の子です。

しかし、雨天時やグラウンドの使用ができないときなど、外で遊べないということを納得することが難しく、しばしばパニックになってしまうことがありました。

#### 《背景は?》

- 興味関心が狭く、楽しめるものが少ない。

#### 《得意なこと・できること》

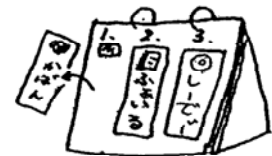
- 三～四つの内容をシンボルマーク+ひらがなで表示したスケジュール表を使うことができる。
- 休憩時にはタイマーを首から提げ、休憩終了のタイマーの音を聞いて教室に戻ることができる。
- CDデッキの操作が一人でできる。

#### ● A君の好きな音楽を探そう

朝や帰りの日常生活の指導の時間や、休憩時間に指導場面をしぼりました。

- ・スケジュールの中の活動の終わりに、「しーでいー (CD)」を取り入れる。
- ・「一緒に聞いてみようよ」と誘いかける。

《その結果》 1週間ほど経過すると、机の上にあったCDを自分で操作し、聴くようになってきた。



A君のスケジュール表

#### ● 一緒に踊ろうよ!

同じ頃、クラスの友達とお互いに関心を持ち始めるようになったので、これを機会に、普段、教師との関わりが多いA君に、友達にも関わりが持てるようになって欲しいと思いました。

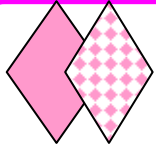
- ・A君と遊びたそうにしていた友達に、教師が「A君の好きなCDを聴こうか?」と話しかけ誘う。



### 《指導後の様子》

一人でもCDを聴くことができていたA君ですが、友達と一緒に踊ることの楽しさがわかり、自分から友達へと誘いかけることが見られるようになってきました。

A君の好きなものの一つである音楽を手がかりにして、新しい友達と仲良くなって、楽しい時間を過ごすことができるようになりました。また、雨天時やグラウンドが使用できないことがあっても、「じゃあCD聴こうか?」と誘うことで室内で過ごし、友達と音楽を聴いたり踊ったりして、楽しい時間を共有できるようになりました。



事例 = 余暇の指導 =

## 家庭で約束を守ってパソコンを楽しめるようになったB君

特別支援学校 中学部

### 《子どもの様子は？》

B君は、パソコンを使って、興味のあることをインターネット検索したり、大好きな博物館のポスターを印刷したりすることを毎日楽しみにしています。

しかし、深夜や早朝など時間を選ばずに際限なくパソコンをやったり、それを止めると怒り出したりすることも増えてしまいました。パソコンの使い方の約束をお母さんとしていますが、いくらその約束を確認しても守ることが難しく状況は変わりません。自由時間に、好きなこと（＝パソコンやお絵描きなど）ができる力は伸ばしてあげたいけれど、パソコンにこだわってしまっただけで規則正しい生活が送れなくなってきているので、パソコンは片付けてしまった方がよいのかと、お母さんもととても困っています。

＜お母さんとの約束＞

- ①朝からパソコンをやるときは、8時30分からはする。
- ②学校のある日の朝は、パソコンをやらない。
- ③1日に印刷する枚数は5枚にする。



### 《背景は？》

- 言葉で伝えられた約束を、記憶したり思い出したりすることが難しい。
- 「どうして、そうしないといけないのか」など、約束の理由が分からない。
- 気になるものを全て見たり印刷したりしないと納得がいかない。

### 《得意なこと・できること》

- スケジュールを見て、これからの予定を知ることができる。
- 手順表を使って、一人で活動を行うことができる。
- パソコンでローマ字入力ができる。好きなことをインターネット検索することができる。
- 好きな活動（パソコン、お絵描きなど）が複数あり、何もすることがない時間に好きなことをして楽しく過ごすことができる

### 《指導の経過は？》

B君の得意な「見てわかる」支援を活用することにより、自分の行動を確認したり見通したりできるようになるのではないかと考えました。そこで、学校でも「先生と約束を守ってパソコンを使う」学習を行い、学校で約束を守ることができるようになってきた後に、同じ支援方法で家庭でも取り組んでもらうことにしました。

#### ● パソコンの使い方を手順表で示す。

- ・パソコンの授業でB君がやるべきことを手順表で示して確認をする。
- ・印刷とインターネットを始めるときに「〇〇先生、～してもいいですか」と確認をする相手を手順表に明記する。

- 1 文字を打つ勉強をする。
- 2 「〇〇先生、印刷してもいいですか」
- 3 印刷をする。
- 4 ファイルにとじる。
- 5 「〇〇先生、インターネットしてもいいですか」



《その結果》手順表に書いてある先生のところへ言いに来るようになり、勝手に印刷やインターネットをすることがなくなった。

### ● 印刷できる枚数を表に示す。



- ・ 1枚印刷をするごとに表にシールをはるようにする。  
シールを全部はり終わったら、表を見ながら「今日の印刷は終わりだね」と確認する。
- 《その結果》印刷する度にシールをはることで、印刷した枚数や残りの枚数が一目でわかり、気になっているもの全てが印刷できなくても怒らずに納得できるようになってきた。現在では、自分から「印刷おしまい」と言ってプリンターの電源を切っている。

### ● 終わりの時間を示す。



- ・ 予め終わりの時間を伝えてからパソコンを始めるようにする。
  - ・ 実際の時計と終わりの時間を示した時計カードを用意し、同じ時刻になったら終了とする。
- 《その結果》この手立てでは、怒り出してしまふことがあった。B君にわかる形で「あとどれくらい(時間の残量)」が呈示されておらず急に終わりの時間になったように感じたようだった。
- ・ タイムタイマーを使って「赤いところがなくなったら、今日のパソコンは終わりだね」と伝えるようにした。
- 《その結果》残り時間を見ながらパソコンを楽しんだり、自分からパソコンを片付けたりするようになった。

### ● 理由を紙に書いて示す。

パソコン室は使えません。高等部の人たちが使います。



教室でパソコンをやります。



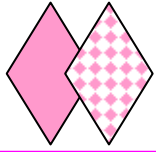
パソコン室が使えず教室でパソコンをやろうとした時、怒り出してしまったこともあった。パソコン室に行かないということは、パソコンまでできなくなってしまうと、思ったようである。

- ・ 「大丈夫、教室でやるからね」と説明する。
- 《その結果》いくら言っても、興奮しているB君は、なかなか耳を傾けることができなかった。
- ・ 紙に文字で「パソコン室は使えません→教室でパソコンをやります。」と書く。B君にとって理解しづらいと考えられる「どうして(理由・因果関係)」の部分に矢印をつないで説明する。

《その結果》何だろうという表情で覗き込み、納得して教室でパソコンの準備を始めた。

## 《指導後の様子》

手順表、枚数表、タイムタイマー、文字による説明等、「見てわかる」支援方法を家庭でも取り入れることで、B君も混乱することなく、お母さんとの約束を守ることができるようになっています。お母さんも、「伝え方に気をつけるだけで、こんなにB君の反応が変わってくるのですね」と実感し、とても感動したと話してくれました。B君もお母さんもパソコンでイライラしてしまうことがなくなり、家庭での過ごし方もとても穏やかなものになっています。



事例 =余暇の指導=

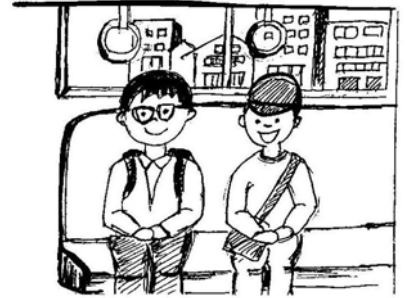
## 充実した週末が過ごせるようになったCさん

特別支援学校 高等部

### 《子どもの様子は?》

Cさん(男子)は、電車やバスに乗ったり、高い建物から景色を眺めたりすることが好きです。「JR品川駅」「フジテレビ」「電車のる」等と行きたい場所の名前を言ったり、予定表を見てお出かけの日を楽しみにしたりしています。

しかし、トイレに行く際に配慮が必要だったり、買いたい物があると母親に強く要求したりすることが多く、母親と二人で外出することは難しいため、父親と休みが合った時しか出かけることができません。休日に家にいるとゴロゴロしてしまうことが多いCさんの様子を見て、保護者も「週末には、もっとCさんの楽しみをかなえてあげたい」と願っています。



#### 《背景は?》

- Cさんは外出が好きだが、一人では難しい。
- 外出先では、同性でないと支援できないことが多い。

#### 《得意なこと・できること》

- 要求や拒否、排泄の予告、メニューからの選択、簡単な質問への応答ができる。
- デジタル時計の数字を目安に動くことができる。
- 一日の流れを、簡単な文字によるスケジュール表を使って理解することができる。

### 《支援の経過は?》

#### ● 地域でサポートしてくれる人を探そう

本人と保護者の願いを受け、学校でも地域でサポートしてくれる資源を探しました。

- ・ 自立支援法によるサービスが利用できる高校生や成人のための週末お出かけグループ活動や、ガイドヘルプ制度を活用する。地域の相談機関からも情報を集め、保護者に紹介する。
- ・ Cさんと保護者が、それぞれの機関の様子を実際に見学し、意思疎通が図りやすいいくつかの支援機関に決める。

#### ● 支援機関と連携しよう

Cさんの生活全体を考えながら、支援をしていくためには、関係機関(者)同士の連携が重要です。

Cさんとのコミュニケーションの方法、身辺面でのスキル、公共機関利用のためのスキル、好きなことや苦手なこと、不安定になった時の対応などについて、共通理解を深めることが必要です。Cさんの様子は、家庭と学校、あるいは学校外では異なることが多々あります。

- ・ 本校がコーディネート機関となり、保護者、支援機関、学校（校長・教頭、担任、特別支援教育コーディネーター等）三者による個別支援会議を設けた。

〔資料〕①個別の指導計画で作成している「児童生徒の実態」（保護者の同意が必要）




②学校で使っている「手順カード」

《その結果》Cさんに関係する人たちが、直接会って話し合うことで、連携がスムーズに行われた（手順カードを外出の時にも応用してもらうこと等）。その後は、保護者を通して学校での様子を伝えてもらったり、支援機関で困ったことがあった時には、担任と支援者が直接電話でやりとりしながら相談したりしている。

〔児童生徒の実態〕

高等部 ○年	氏名	...
現在の様子（実態）		
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活面での身辺処理はほぼ自立している。排泄は一人で行うことができるが、排泄後の手洗い等で支援が必要である。また、トイレにある洗剤等を気にすることが時々見られるため、言葉かけを要することがある。</li> <li>・ 衣服の着脱は一人でを行うことができるが、シャツの前後を間違えたり着替えに時間がかかったりするため教師の促しを必要とする。着替えの後の風呂敷包みは、固結びではあるが行うことができる。</li> <li>・ 食事は、スープ類が好き。苦手なものを後回しにするので時間はかかるが、完食することができる。</li> </ul>	家庭より ・ ゴウゴウした感 触の洋服はあまり好きでないようです。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学は、一桁の足し算、引き算ができる。国語は助詞の学習で少しずつ理解が進んでいる。お金への興味もあり、硬貨や紙幣の弁別は7～8割の確率で正解できる</li> </ul>	
社会面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活で使用する指示等はほぼ理解し、言語の指示で活動ができる。自発的な発語はあまり多くはないが要求はある程度、言語で伝えることができる。</li> <li>・ 作業学習では見通しが持ちやすいように「手順カード」を補助的に使用し、一人で活動できる場面を増やしている。「終わりました」と教師に報告することもできるようになっている。</li> <li>・ 休み時間や自由時間に「～しよう」と促しても「やらない」と言い、特定の本（絵本）を好んで読んでいることが多い。</li> <li>・ 時々気持ちが不安定になることがあり、教師の手を自分のあごに強く押しつける等の行為が見られる。さらに強くなると大きな声で泣いたり、他人を叩いたりすることもある。そのような時には、静かな場所に誘導したり好きな本を渡したりすると落ち着くことが多い。</li> </ul>	
健康面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰宅後、昼寝をすることで睡眠リズムがくずれることがある。</li> <li>・ 鼻炎のため睡眠不足になることがある。</li> </ul>	・ 行事の前は不安が強くなり眠れなくなる。
得意なこと・好きなこと等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の絵本（ちびくまちゃん）を読むこと。</li> <li>・ 銭湯に行くこと。</li> <li>・ 電車に乗ること。</li> </ul>	・ 家では好きな毛布があります。
苦手なこと・避けるべきこと等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急に後ろから触られること。</li> <li>・ 洋服がめれること。</li> <li>・ やったことがうまくいかず、繰り返しやり直しをさせられるとイライラする様子がある。</li> </ul>	・ 胃が嫌いです。

〔手順カード〕

- 1 牛乳パックをきります。  
5まい ●●●●●
- 2  に持って行きます。
- 3 ミキサーに入れます。
- 4 スタートボタン（20）
- 5  に入れます。
- 6  「できました」

《指導後の様子》

Cさんは月2回程、週末のお出かけを楽しんでいます。自分の予定表に「東京タワー」等と書き入れてもらい、時々指さしては楽しみにしています。また、お出かけの際の買い物代は、お手伝いをしてためることにしました。お風呂掃除、お茶碗洗い、布団の上げ下げ等をしては、お家の人から50円ずつもらって、自分の貯金箱に入れているそうです。家族以外の人との外出は、青年期に入ったCさんの精神面の成長においても大切だったようで、出かける日には自分から財布等を用意したり、ヘルパーさんの名前を言いながら待ったりしているそうです。